St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度（平成20年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/4728

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

XI　看護実践開発研究センター

開設６年目を迎えた看護実践開発研究センターは、看護実践開発、研究支援、実践、生涯学習支援、交流、情報発信の機能を有し、看護ケア研究部門、教育研究部門、国際看護研究部門、政策研究部門、継続教育部門を構え、研究センター運営委員会のもと活動を行った。

１．研究センターの運営および構成員

研究センター運営委員会（以下、運営委員会）は、センター運営に関する重要事項を審議するために設置され、2008年度の委員会メンバーは、センター長（山田雅子教授）、研究科長（堀内成子教授）、各部門長（看護ケア研究部門長；小松浩子教授、教育研究部門長；菱沼典子教授、国際看護研究部門長；田代順子教授、政策研究部門長；井部俊子教授、継続教育部門長：松谷美和子教授）、専任研究員（森明子教授、小口江美子教授、吉田千文准教授、矢ケ崎香助教、細川恵子助教、實崎美奈助教）とオブザーバー（山口喜義事務局長）で構成した。なお今年度は、聖路加・テルモ共同研究事業の実施に関連して教授１名（2007年12月から配置）、認定看護師教育課程開講に関連して、教授１名、助教３名、非常勤講師２名（竹森志穂、沼田美幸）が追加され、常勤の専任研究員はセンター長を含め、昨年度の３名から７名に増員された。

運営委員会は、毎月１回、計11回開催され、主な検討事項は、研究センターの事業運営、認定看護師教育課程の開講・運営、看護管理者養成セカンドレベル講習の開講・運営、各種研究員の承認、各部門の活動報告などであった。

運営委員会に関連する会議には、センタースタッフミーティング、るかなび運営委員会、研究センターHP検討会（新）、認定看護師教育課程教員会・入試委員会、認定看護管理者講習（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会がある。

2008年度に新たにスタートした事業は、ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ、リンパ浮腫ケアステーション、新健康カレッジ、ストレスマネジメントヨーガ、在宅ケアコンサルテーション、退院調整看護師養成プログラムと活動支援、認定看護師教育課程の３コースであり、合計30事業が展開された。なお、リンパ浮腫ケアステーションの実施に関しては、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に則った施術所としての届出を東京都に行い、保健所から視察を受けた後６月10日に認可された。

2．研究実績

1）専任・兼任研究員および研究テーマ一覧

◎はセンター長，○は専任研究員，＊は部門長

部門	氏　名	研　究　テ　ー　マ	補助金名
看護ケア研究	有森　直子	女性のリプロダクション健康課題の意思決定支援教育コンソーシアムとプログラム検証 出生前検査の選択を考慮する女性をエンパワメントする包括的意思決定支援の介入研究	文部科学省科研費
	市川和可子	がん体験者が伴走する Web 版乳がん患者サポートグループの開発	文部科学省科研費
	糸井　和佳	都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流を促進する支援の開発	文部科学省科研費
	卯野木　健	気管挿管・人工呼吸器使用患者における簡便なせん妄評価法の信頼性・妥当性の検討	文部科学省科研費
	江藤　宏美	乳幼児の睡眠分析システム情報共有プラットホームの構築	文部科学省科研費
	及川　郁子	子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築	文部科学省科研費
	大久保暢子	慢性期脳血管障害患者の寝たきりを防ぐ背面開放座位ケアプログラムの開発	文部科学省科研費
	大熊　恵子	病棟看護師が認識している統合失調症患者への退院支援の困難さの分析	文部科学省科研費
	大森　純子	前期高齢女性の近隣他者との交流関係を活用した主体的健康増進プログラムの開発	文部科学省科研費
	小野　智美	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムの評価への段階的研究	文部科学省科研費
	梶井　文子	認知症高齢者の学際的チームアプローチに関するケアの質評価システムの開発	文部科学省科研費
	片岡弥恵子	アジア文化圏に生きる女性への DV 支援ガイドライン創生と検証 Quality Indicator の開発：社会に対し出産ケアの質を保証するために	文部科学省科研費
	亀井　智子	急増する在宅慢性呼吸不全患者の入院を予防するテレナーシングの日本への実践的導入	文部科学省科研費
	萱間　真美	精神科疾患を有する人の地域生活を支えるエビデンスに基づいた看護ガイドラインの開発 精神障害者の退院促進と地域生活のための多職種によるサービス提供のあり方とその効果に関する研究	厚生労働科研費 厚生労働科研費
	＊小松　浩子	患者と医療者が分かり合えるがんコミュニケーション促進モデルの開発と有用性検証 市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ねるまちづくり」の開発と評価	文部科学省科研費 厚生労働科研費
	佐居　由美	看護師の「安楽なケア」実践を促進するためのプログラムの開発と評価	文部科学省科研費
	佐竹　澄子	寝たきり患者の副交感神経優位を導く聴覚刺激	文部科学省科研費
	外崎　明子	がんサバイバーの身体活力回復プログラムの構築と評価研究	文部科学省科研費

	長松　康子	アスベスト関連相談に関する保健師向けガイドラインの構築と評価	文部科学省科研費
	永森久美子	生後14日間における母乳育児支援のための哺乳行動アセスメントツールの開発	文部科学省科研費
	平野　優子	在宅人工呼吸器装着 ALS 患者の困難と人生再構築支援ガイドライン作成への縦断的研究	文部科学省科研費
	平林　優子	子どもの医療的ケアの自律的日常生活行動への導入に関する看護支援プログラムの作成	文部科学省科研費
	堀内　成子	貴重児妊娠の不安を軽減するための就寝中胎動ホームモニタリングの実用化開発 ユビキタス IP-TEL 産科医療通訳システムの開発	文部科学省科研費
	○森　　明子	排卵誘発剤を使用する女性が安楽に安心して過ごすためのセルフケア支援モデルの効果	文部科学省科研費
	○矢ヶ崎　香	がん医療における EBN と臨床実践の gap と波及モデルの開発	文部科学省科研費
教育研究	麻原きよみ	地域看護における体系的倫理教育ラダーの開発と評価	文部科学省科研費
	奥　　裕美	夜勤から始める新人看護師オリエンテーションプログラムの開発とその評価	文部科学省科研費
	萱間　真美	質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成に関する研究	文部科学省科研費
	中山　和弘	インターネット情報に翻弄される患者、家族を支援する看護職のための e ラーニング開発 患者・家族・国民の視点に立った適切ながん情報提供サービスのあり方に関する研究	文部科学省科研費 厚生労働科研費
	＊菱沼　典子	少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの開発	文部科学省科研費
	柳井　晴夫	臨地実習生の質の確保のための看護系大学共用試験（CBT）の開発的研究	文部科学省科研費
国際看護研究	＊田代　順子	看護学でのサービスラーニングを応用した都市型・社会参加型カリキュラム開発と評価 開発途上国看護職の国家間移動を押し止めるホールドファクターとしての現任教育の検討	文部科学省科研費
政策研究	＊井部　俊子	サービスマネジメントをフレームワークとした看護管理学の体系化に関する研究	文部科学省科研費
	萱間　真美	精神障害者の訪問看護におけるマンパワー等に関する調査研究	厚生労働科研費
	廣岡　佳代	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究	厚生労働科研費
	鶴若　麻理	アジアの高齢者の終末期医療をめぐる事前指示に関する国際比較研究	文部科学省科研費
	◎山田　雅子	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究	厚生労働科研費

2）客員研究員および研究テーマ一覧

部門	氏名	研究テーマ	共同研究者	所属
看護ケア部門	石井　慶子	死産を経験した家族への支援	堀内　成子	お空の天使パパ＆ママの会（WAIS）関東支部
	太田　風子	リンパ浮腫ケアステーション	小松　浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	尾形美奈子	リンパ浮腫ケアステーション	小松　浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	片桐麻州美	周産期病棟におけるセルフマネジングチーム制の評価	堀内　成子	社会保険中央総合病院
	川北　智子	リンパ浮腫ケアステーション	小松　浩子	広田内科クリニック
	小林　紀子	母乳育児	永森久美子	ルカ子母乳育児相談研究所
	相良-ﾛｰｾﾞﾏｲﾔｰ みはる	看護研究の方法論としての現象学の追及	堀内　成子	旭川医科大学医学部看護学科 聖路加国際病院小児科
	佐藤佳代子	リンパ浮腫ケアステーション	小松　浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	田中　明恵	リンパ浮腫ケアステーション	小松　浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	中川　有加	Women-centered Care	堀内　成子	大阪赤十字病院
	矢形　寛	リンパ浮腫ケアステーション	小松　浩子	聖路加国際病院
教育研究	大久保菜穂子	市民との協働による健康支援ボランティア教育プログラムの開発	菱沼　典子 山田　雅子	日本伝統医療科学大学院大学
政策研究	内田千佳子	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ねるまちづくり」の開発と評価	山田　雅子	在宅ホスピス協会
	大久保菜穂子	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ねるまちづくり」の開発と評価	山田　雅子	日本伝統医療科学大学院大学
	霜田　美奈	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ねるまちづくり」の開発と評価	山田　雅子	ボランティアグループ・パリアン

3．研究事務支援

研究助成金他情報提供、文部科学省科学研究費補助金、厚生労働科学研究費補助金、聖路加・テルモ共同研究事業、日本学術振興会特別研究員、府省共通研究開発管理システムについての支援を行った。

具体的な支援内容は以下のとおりである。

⑴　研究助成金他情報提供

研究助成金、研究員募集について29件の情報提供と内容相談を行った。

⑵　文部科学省科研費事務

本年度は、39件［基盤研究23件、萌芽研究４件、若手研究（Ｂ）９件、若手研究（スタートアップ）２件、特別研究員奨励費１件］の事務を行った。

① 申請業務

・前年度実績報告書（４月）

・当年度交付申請書（５月）

・前年度成果報告書（６月）

・次年度研究計画調書（11月）

② 手引きの作成

・「文部科学省科学研究費補助金の取扱いについてー平成20年度版ー」

・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、「文部科学省科学研究費補助金の取扱いについてー平成21年度版ー」の作成にあたり、改訂に向けての作業を行った。

③ 会計業務

・提出書類の確認、出納業務

・収支簿作成

④ 相談業務

⑤ 説明会等の開催

2008年５月20日、27日㈫	取扱いについての説明会
〃 10月３日㈮	研究計画調書申請公募要領等説明会
2008年12月17日㈬	会計監査報告会

⑶ 厚生労働科研費事務

本年度は、７件について事務を行った。

① 会計業務

・通帳作成

・個人別会計書類作成、配付

・提出書類の確認、出納業務

・収支簿作成

② 相談業務

⑷ 聖路加・テルモ共同研究事業

① 会計業務

・プロジェクト別会計書類作成、配付

・物品発注

・プロジェクト、全体書類の作成・確認、出納業務、予算管理

・収支簿作成

② 相談業務

③ セミナー等のサポート

＜セミナー等＞

・ナースクリニック

るかなび

乳がん女性のためのサポートプログラム

こどもの健康、知ろう、考えよう！

－子どもの健康を家族と考える学習・交流会－

出張介護講座

転倒骨折予防体操教室

ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ

天使の保護者ルカの会

・市民健康講座

新健康カレッジ

⑸　日本学術振興会特別研究員

①　申請業務

・新規申請１件（DC１件）

⑸　府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の管理、運用

①　研究機関申請

②　研究者情報

４．実践

研究センターにおける市民との協働により開発されてきている看護提供方法としては、るかなびとナースクリニックに分類されている11事業が該当する。以下にそれらの概要を記す。

１）聖路加健康ナビスポット；るかなび

聖路加健康ナビスポット『るかなび』は、2004年５月から健康情報サービスを始め今年で５年目を迎えた。2008年度は聖路加・テルモ共同事業の一つとして運営されている。市民一人ひとりが主体的に健康生活を送るために、質の高い健康情報を提供することを目指している。ここ『るかなび』では、市民を対象に、パンフレットや図書の提供、およびインターネットによる情報検索、看護師・保健師・助産師などによる健康相談と、血圧測定、骨密度測定、身長・体重・体脂肪測定などの健康チェックサービスを行っている。

『るかなび』の運営は、るかなびコーディネーター２名（看護師・司書、各１名）を中心に、るかなびボランティア（看護師など医療専門職・市民）と、教員、職員（司書）、本学大学院生で構成されるるかなび運営委員会で議論し進められてきた。るかなびボランティアには、医療専門職として本学卒業生や、本学教員の関係者、また、サイコセラピスト、管理栄養士といった有資格者がボランティアとして登録している。さらに、センター事業である「健康支援ボランティア講座」を修了した市民も市民ボランティアとして活動に加わり、今年度８名の新規登録者を含め総勢21名の市民が活動に参加している。

『るかなび』の主な活動は、「健康相談」「健康チェック」「健康情報の提供」「闘病記の提供」である。加えて「ランチタイムミニ健康講座・コンサート」「CHADO」などのイベント開催、「中央区福祉祭り」「白楊際」「聖公会フェスティバル」に参加し、るかなびを理解してもらう活動をしている。

『るかなび』の健康相談などの利用状況は、年間約1,140名の利用者となり、昨年度より157名増加した。1,140名の内訳は、女性が８割以上であり、年齢層は50代、60代が５割を占めている。

中でもリピーターの利用者が４割だった。今年度は５月から1月の間、利用者に健康相談の評価をしてもらうため、はがきを使ったアンケートを行った。221枚配布し回収された168枚（回収率（76.0%）の結果では、健康相談の満足点（10点満点）は平均9.24点、そのうち10点満点が100名（59.5%）だった。再利用の希望者は159名(94.6%)だった。

「健康チェック」では骨密度測定を行っている。今年度は骨粗鬆財団の研究助成を受け、年代別の課題を踏まえた骨粗鬆症ならびに骨粗鬆症から生じる障害の予防のための教材作成に取り組んだ。まず360名に骨粗鬆症に関するアンケートを行い、年代別に骨粗鬆症に関する知識、骨密度に影響する生活習慣等を把握したうえで、年代の特徴に合った教材を作成している。教材は来年度早々から『るかなび』で使えるようになる予定である。

闘病記コーナーでは、新たに410冊を加え、1,417冊となった。冊数がふえたことで、新しく「闘病記文庫ブックリスト2008」を作成し、病名、書名検索をしやすくした。

また、ランチタイムミニ健康講座・コンサートは９回開催し、参加人数は延べ441名だった（**表１**）。リピーターが毎回半数を占めており、イベントが地域に定着してきていることがうかがえる。ミニ講座では、るかなび市民ボランティア３名がそれぞれの闘病体験や育児体験を市民の目線で講演し、会場からも質問や意見が出され好評だった。さらにその講演をきっかけにして別の施設での講演依頼が入り、市民ボランティアの活躍の場が広がっている。

表１　2008年度　ランチタイムミニ講座＆ミニコンサート開催覧

ミニ講座演題/演者	ミニコンサート/演奏者	参加者数
ナースがすすめる良い病院の見方/奥裕美・中村綾子	ソプラノ独唱/野村浩子・ピアノ伴奏/大久保礼子	55
地域で育てる子育ての輪/中村佳子	アイリッシュハープ/吉田清子	50
高血圧が気になるあなたにちょっと食事アドバイス/鈴木孝子	落語/三朝亭半゛左　（山上伸治）	48
特定健診について/溝口千鶴	ラテンハープ/高橋麻由	40
自らの命は自らのもの―賢い患者になろう/秋元君男	クラリイネット･ニューフォニューム演奏/ラーボ・ラ・ガンバ	69
赤ちゃんの話―子育てのちえ―/江藤宏美	ソプラノ独唱/畑野良子・ピアノ伴奏/安久津素子	48
病を得て想うこと―闘う―/福田茂代	合唱/聖路加看護大学聖歌隊	53
アメリカの国立公園の旅から―お湯があるのに温泉宿はない！！/菱沼典子	落語/三朝亭半゛左　（山上伸治）	42
介護ヘルパーの一週間/木村務子	アイリッシュハープ/吉田清子・朗読/長谷川百合子・ピアノ/堀江晃子	36

CHADO は、通常の図書閲覧コーナーを簡易の茶室に設営して行っている。今年度は11回開催した。

地域との連携として、中央区の健康福祉祭りにるかなびボランティアと共に参加し、骨密度測

定や体脂肪測定、結果を基にした食事のアドバイスを行った。また、「自分のからだを知ろう」キャラバンが創作した「からだ踊り」「からだ紙芝居」を屋外の舞台でも披露した。骨密度測定にはたくさんの人が訪れ、大盛況だった。

さらにるかなびは、大学の事業として教育研究の役割も担っている。今年度は本学の「生涯発達看護論Ⅱ」「看護援助論Ⅰ」の実習で計10名の学生を受け入れた。また、「看護形態機能学」の学習の一環で、学生が市民向けのパンフレットを作成しており、今年度も４種類のパンフレットを市民に配布している。

『るかなび』は、市民ボランティアと専門職ボランティアが協働して活動をすることを目指してきた。現在、健康相談は専門職ボランティアが行い、その他の受付や、利用者の目的に応じた案内、健康チェック、地域への広報活動などは市民ボランティアが担って活動している。また、定期的に会議やミーティング、事例検討会を開催している。さらに市民ボランティアの発案で、ボランティア同士のコミュニケーションを円滑にするため、年に４回のボランティアニュース作りを始めた。専門職と市民が互いに自由に意見を出し合うまでにはまだ至っていないが、徐々にコミュニケーションを重ね人間関係ができてきている。来年度は、ボランティアが新たな役割をもって『るかなび』活動により主体的に参加していくことを目指していく。

２）ナースクリニック

ナースクリニックは、看護師がもつ専門的な知識を背景に、個人相談やケア、サポートグループなどを行っている。2008年度に実施されたナースクリニック事業の概要を**表２**に示した。2008年度に新たに開設されたものは、リンパ浮腫ケアステーション、ルカ子ウィメンズヘルス・カフェの２事業である。

リンパ浮腫ケアステーションは、聖路加国際病院と連携し、施術所として乳がん患者のためのケアを多職種連携の中で提供している。また病院看護師を対象とした教育プログラムも開講している。ルカ子ウィメンズヘルス・カフェは、認定看護師教育課程（不妊症看護コース）を開講するに当たり、実践および教育の場として設置された。

これらのナースクリニックは、教育との連携という側面で、学部学生の臨地実習、大学院生の研究フィールドとして貢献している。しかし各種研究費を財源として実施しているのが特徴であるため、財源の継続的な確保が大きな課題となっている。

表２　ナースクリニック事業の概要　　**2008年4月～2009年3月実績**

形 態	名　称	目　　的	対　　象	実施回数	実 施 者	年間利用者数
集団	赤ちゃんがやってくる	新しく赤ちゃんを迎える家族、特に兄姉が、妊娠・出産・新生児について学ぶことで、赤ちゃんを迎えるこころの準備ができる。また兄姉になる子どもたちが、生命の誕生について学び、体験を共有することで、自分の生・性を大切にできるようになる	兄姉になる子ども、次子を妊娠中の女性／家族	６回／年	開業助産師・大学教員他	175

個人相談・ケア	ルカ子母乳育児相談室	子育て中の母親を対象に母乳のケアを中心とした育児相談事業を行う。学部学生が子育て中の母と子に出会い、母乳育児相談の実際を学ぶ機会とする。また、子育て支援の一端を担う助産師のかかわりを知る機会とする	育児中の女性	毎週月･水曜日	大学教員･大学院生	383
集団	ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ	①リプロダクティブ・ヘルス（妊娠・出産や子育て）をめぐるテーマで、学び語り合う場の提供を通じ、女性が正しい知識・安心と信頼のもとで自分らしいリプロダクティブ・チョイスができるようにサポートする ②不妊症看護認定看護師教育課程の研修生の教育（演習を含む）の場・機会とする	女性	６回／年	大学教員･ピアグループ･研修生	39
集団	乳がん女性のためのサポートプログラム	乳がんをもつ女性が主体的・効果的に治療を継続し、治療を受けながら充実した生活が送れるよう、個々の体験を分かち合う場となる	乳がん治療中の女性	９回／年	大学教員・看護師・大学院生	422
集団	子どもの健康、知ろう、考えよう！	子どもの健康に関心のある子どものご家族や、子どもに関連した保健、福祉、教育に従事している人々との交流や学集会を通して、子ども健康サポートのためのネットワークを広げていく	中央区に関係する方で、お子様の健康に関わる方	４回／年	大学教員他	60
集団	天使の保護者ルカの会	流産・死産・新生児死亡などで子どもを亡くした母親や家族のセルフヘルプ・ミーティングやグリーフ・ケアに関する催し物を実施し、体験者を支援する。周産期におけるビリーブメントケアについて学習した大学院生･学部学生が、体験者の思いや立場、セルフヘルプ・グループ活動の実際と看護者のかかわりについて学ぶ機会とする。病院で実際に、流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした母親や家族をケアしている看護者に、セルフヘルプ活動に参加する機会を提供し、看護者が、体験者の思いや立場、ケア、退院後の支援などについて学習できるよう支援する	流産・死産等を体験した女性／家族	９回／年	大学教員･大学院生他	143
個人相談・ケア	リンパ浮腫ケアステーション	がん治療に伴うリンパ浮腫の予防、早期発見、適切なケアに関する、セルフケア教育および専門的ケアを実施し、がん体験者が治療を受けながら充実した生活が送れるよう支援することを目的とする	乳がんの治療により、リンパ浮腫の予防や改善を必要とする方	毎週火曜日	大学教員･あん摩マッサージ指圧師	150

個人相談・ケア	高齢者のための栄養相談・心理カウンセリング	①加齢や生活習慣病ならびに慢性疾患、障害等に伴う食生活ならびに栄養に関する相談に対して情報提供を行うことにより、高齢者およびその家族が、毎日の食事について安心して継続的に送ることができるように支援する ②高齢者およびその家族が抱える「不安やストレス」を「新しい自分」を発見するカウンセリングによりリフレッシュできるように支援する	高齢者とそのご家族	①栄養・食事相談：木曜日 ②真意カウンセリング：火・木曜日	大学教員、カウンセラー	18
集団	聖路加　和みの会	多世代の近隣区民が安心して参加でき、世代間交流を通じて、高齢者の“知恵”および“日本文化の継承”を促進するデイプログラムを創設し、提供する	高齢者・認知症を持つ方、介護者・学齢児、区民等	毎週金曜日	大学教員他	975
個人相談・ケア	出張介護講座	地域のニーズに応じて町内会・婦人会・高齢者クラブ等に出張し、介護講座を行うことにより、希望に沿った関心あるテーマで実際に役立つ情報提供を行う	高齢者とそのご家族	随時	大学教員	115
集団	転倒骨折予防実践講座	転倒・骨折予防に関する教育や、継続実践可能かつ効果的な体操の実践により、高齢者の転倒や骨折を防ぎ、日常生活を継続できるようなプログラム提供を行う	高齢者	５回／年	大学教員他	55

５．生涯学習支援

１）看護専門職向け（ナーススキルアップ講座）

『ナーススキルアップ講座』は、忙しい看護職が通いやすい時間を設定し、生涯学習の契機となること、また受講者同士、そして大学教員・研究員との交流の場として機能することを目的としている。これまでのプログラムに引き続き、関心の高い内容と受講しやすい時間帯を検討し、以下のようにコースを設定した。

コースの概要は、各々のコースが短期間で気軽に受講できるように、夜間の毎週同じ曜日に集中して行う講座、２週間に１回開講する講座、また１年を通して学ぶことができるよう１ヵ月に１回など定期的に行う講座を設けた。2008年度は、「看護管理コンサルテーション」「緩和ケアコンサルテーション」「在宅ケアコンサルテーション」「がん看護 事例検討会」「精神看護 事例検討会」「退院調整看護師養成プログラムと活動支援」「EBN～さがす・よむ・つかう臨床研究～出張講座」「英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～」「英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～」の９講座を開講した。講座の講師は、大学の教員およびセンターの専任研究員を中心に、昨年度から依頼している外部講師が加わった。このうち、「緩和ケアコンサルテーション」「がん看護事例検討会」は文部科学省がんプロフェッショナル養成プランの一環で行われている事業であり、無料で実施した。

今年度から新たに開始した事業としては、「在宅ケアコンサルテーション」「退院調整看護師養

成プログラムと活動支援」があり、退院調整に力を発揮できる看護師の養成を目的として、個別相談や、参加型講義を通じて活発なディスカッションが展開された。

また、参加者が少ない「英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～」については、今後、「英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～」 との日程の組み方の工夫や、授業内容の違いの明文化など、新たな方法を模索することとなった。

【2008年度開講コース】

＜看護管理コンサルテーション＞

開 催 日：2008年５月～2009年２月　第２・４木曜日

講　　師：井部俊子（聖路加看護大学教授）

相談者数：１名

＜緩和ケアコンサルテーション＞

開 催 日：2008年４～2009年３月　随時

講　　師：梅田　恵（がん看護専門看護師・聖路加看護大学客員研究員）

相談者数：９名

＜在宅ケアコンサルテーション＞

開 催 日：2008年４～2009年３月　随時

講　　師：山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）

相談者数：４名

＜がん看護　事例検討会＞

開 催 日：2008年４月19日、５月７日、６月11日、７月２日、９月３日、
10月１日、11月５日、2009年２月４日、３月４日/水曜日

講　　師：小松浩子（聖路加看護大学教授）
梅田　恵（がん看護専門看護師、聖路加看護大学客員研究員）

参加者数：40名

＜精神看護　事例検討会＞

期　　間：2008年４月18日、５月23日、７月18日、９月26日、
10月24日、11月28日/金曜日

スタッフ：萱間真美（聖路加看護大学教授）
瀬戸屋希（聖路加看護大学准教授）
大熊恵子（聖路加看護大学助教）

参加人数：141名／６回

＜退院調整看護師養成プログラムと活動支援＞

期　　間：2008年12月４日・18日、2009年１月８・22・29日/木曜日

講　　師：山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）
吉田千文（聖路加看護大学看護実践開発研究センター准教授）
平野優子（聖路加看護大学助教）
長江弘子（岡山大学保健学研究科教授）
宇都宮宏子（京都大学医学部附属病院看護師長）

受講者数：41名

＜EBN～さがす・よむ・つかう臨床研究～出張講座＞

開 催 日：申込施設に応じる

講　　師：片岡弥恵子（聖路加看護大学准教授）

江藤宏美（聖路加看護大学准教授）

松本直子（聖路加看護大学図書館司書）

佐藤晋巨（聖路加看護大学図書館司書）

八重ゆかり（東京大学大学院博士課程）

申込施設数：０箇所

＜英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～＞

・開 催 日：①2008年７月３・10・17・24・31日/木曜日

②2009年１月８・15・22・29日、２月５日/木曜日

講　　師：園城寺康子(前聖路加看護大学教授)

受講者数：①13名，　②11名

＜英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～＞

期　　間：①2008年７月３・10・17・24・31日/木曜日

②2009年１月８・15・22・29日、２月５日/木曜日

講　　師：田代順子(聖路加看護大学教授)

受講者数：①３名，　②４名

２）市民向け講座

市民向け講座は、地域に開かれた大学として、幅広い知識、教養を得る場を市民に提供するとともに、大学と一般市民との交流を深めることをめざして、「聖路加市民アカデミー」や「健康支援ボランティア講座」、中央区との連携企画「中央区民カレッジ～まなびのコース」「朗読の会」「ストレスマネジメントヨーガクラス」「新健康カレッジ もっと知ろう自分のカラダ！ はつらつキャリアウーマン編」「新健康カレッジ もっと知ろう自分のカラダ！はつらつシニアステージ編」の７講座を開講している。中央区との連携企画である中央区区民部文化・生涯学習課主催の「中央区民カレッジ～まなびのコース」（前後期の２コース）においては学内教員が講義を行い、それをふまえた実習としてヨーガを取り入れ、これを外部講師に依頼した。さらに、後期には「中央区民カレッジ～シニアコース（クラブ学習）」が行われ、学内講師およびるかなびボランティアスタッフを講師として迎え、調理実習、ヨーガなどの実習を新たに取り入れた。また、家庭教育支援総合推進事業の一環として「妊娠中から子育てを楽しみましょう～マタニティヨーガ」も開講され、市民向け健康講座は計９事業となった。

今年度の実績は以下に示したとおりであるが、市民アカデミーは今年度から株式会社テルモとの共同事業となった。

市民アカデミーは、平日に行ったためか、昨年度より参加者の大幅な増加は見られなかったが、定期事業として着実に認識されてきているようである。朗読の会は固定の参加者が定着し、新規参加者も開始時に比べると増えてきている。また、中央区との連携企画に関しては、全コースとも定員以上の応募があり、抽選が行われたということからも、おおむね参加者からの評価が高い

ことがうかがえた。またアンケートの結果からもヨーガを講義の中に組み込むことで、参加者に自分の健康についてより身近に感じてもらうことができたようである。

来年度は引き続き聖路加・テルモ共同研究事業の継続、新たに２つの講座も開講予定である。市民に向けた健康支援事業がますます増えることとなる。しかしながら、限られたスタッフによる時間や場所のマネジメントが年々難しくなってきているのが現状であり、今後の検討課題である。

a．聖路加市民アカデミー

開催日時：2008年10月10日（金）　13：30〜16：00

講　　師：日野原重明（医師、聖路加看護学園理事長）

平松園枝（聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センターセンター長）

テ　ー　マ：生活習慣病予防のための健康チェック

コンサート：ピアノとカンツォーネ（独唱）

参　加　費：2,000円

参加人数：205名

b．健康支援ボランティア講座

開　催　日：2008年①９月20日、②10月18日、③11月15日、④12月20日　（各土曜日）

講　　師：①島内憲夫（順天堂大学教授）、②八木英之（中央区社会福祉協議会職員）、

③高橋恵子（聖路加看護大学 COE 研究員）、④大久保暢子（聖路加看護大学助教）

テ　ー　マ：①小さな健康哲学―WHO ヘルスプロモーションの視点から―

②ボランティアを考える

③話の聴き方・話し方

④自分のからだ、自分でする健康チェック

参加人数：36名／４回コース

c．中央区民カレッジ

〔まなびのコース：前期〕

開　催　日：2008年①５月28日、②６月11日、③６月25日、④７月9日、⑤７月23日

講　　師：①菱沼典子（聖路加看護大学教授）、②④⑤花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）、

③大久保菜穂子（日本伝統医療科学大学院大学准教授）

テ　ー　マ：①「からだ」を知ろう

②自分のからだをみつめよう　ヨーガ　からだがかたいって本当？

③健康の新しい考え方―ヘルスプロモーション―

④自分のからだをみつめよう　ヨーガ　深呼吸をしよう

⑤自分のからだをみつめよう　ヨーガ　リラクゼーションと瞑想

参加人数：25名／５回コース

〔まなびのコース：後期〕

開　催　日：2008年①10月15日、②10月29日、③11月12日、④11月26日、⑤12月10日

講　　師：①②大久保菜穂子（日本伝統医療科学大学院大学准教授）

③④⑤花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）

テ　ー　マ：①発見！私の健康習慣づくり―生活マップを作ろう―
②健康なまちづくり
③からだを動かそう　ヨーガ（部位別）
④からだを動かそう　ヨーガ（下肢）
⑤からだを動かそう　ヨーガ（上肢）
参 加 人 数：24名／５回コース

d．中央区民カレッジ（シニアコース・クラブ学習）

開　催　日：2008年①９月18日、②９月16日、③９月30日、④10月７日、⑤10月21日、⑥11月11日、⑦11月18日、⑧12月２日、⑨12月９日、⑩12月16日（各火曜日）
講　　師：①⑤⑧ 白木和夫（聖路加看護大学客員教授）
②⑥⑨花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）
③⑩鈴木孝子（管理栄養士、聖路加健康ナビスポット・るかなびボランティア）
④萱間真美（聖路加看護大学教授）
⑦松本女里（保健師・看護師、聖路加健康ナビスポット・るかなびボランティア）
テ　ー　マ：①健康ってなあに？病気ってなあに？
②心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ＆ヨーガ」１
③からだにやさしい食事を作ってみよう１
④うつの不安―身近な心の不調―
⑤がんは誰でもなる病気
⑥心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ＆ヨーガ」２
⑦生活と健康について考えよう
⑧内外から自分のからだを見てみよう
⑨心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ＆ヨーガ」３
⑩からだにやさしい食事を作ってみよう２
参 加 人 数：19名／10回コース

e．家庭教育支援総合推進事業「妊娠中から子育てを楽しみましょう」

開　催　日：2008年６月21日、７月19日、９月20日、10月18日、11月15日、12月20日（各土曜日）
講　　師：花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）、本学教員
参 加 人 数：76名／６回

f．朗読の会～文学の中にみるいのち

開　催　日：2008年４月～2009年２月（毎月第２木曜日）
講　　師：宮里和子（武蔵野大学教授）、堀内成子（聖路加看護大学教授）
参 加 人 数：93名／９回

g．ストレスマネジメントヨーガクラス

開　催　日：Ⅰ期　2008年10月16日・23、11月13日・27日、12月11日・18日
Ⅱ期　2009年１月８日・22、２月12日、26日、３月５日・12日
それぞれ全６回（各木曜日）
講　　師：小口江美子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）

参 加 人 数：77名／12回

h．新健康カレッジ　もっと知ろう自分のカラダ！はつらつキャリアウーマン編

開　催　日：2008年①５月21日、②６月18日、③７月16日

講　　師：①森明子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）

②関根さおり（ウィメンズ・ウェルネス銀座クリニック　医師）

③吉野一枝（よしの女性診療所院長）

テ　ー　マ：①妊娠を迎える女性のからだづくり、健康づくり

②体のサインに気づいて病気を未然に防ごう

③キャリアウーマンに増加している若年性更年期障害とは

参 加 人 数：96名／３回

i．新健康カレッジ　もっと知ろう自分のカラダ！はつらつシニアステージ編

開　催　日：2008年①11月１日、②12月６日、③2009年１月10日

講　　師：①林田憲明（聖路加国際病院循環器内科部長）

②門伝昌己（聖路加国際病院内分泌代謝科）

③小松康宏（聖路加国際病院腎臓内科部長）

テ　ー　マ：①身近に起きる高血圧症とその対策

②健康診断で見つける糖尿病や糖尿病予備軍とその対策

③知っておくべき腎臓の働きや慢性腎臓病

参 加 人 数：113名／12回